

基本情報						
教科・科目	K1 数学 A（基礎）	・授業で使用するもの				
担当者	岩本 育大	・数学 A Standard（東京書籍） ・数学 I Standard（東京書籍） ・数学 II Standard（東京書籍） ・数学 I + A WIDE ・パラレルノート 数学 I + A ・授業用テキスト、プリント ・iPad				
評価割合（試験：試験外）	試験 :6 試験外 :4	試験外評価は、単元ごとの小テストと再テスト、授業中や家庭学習の取り組みを評価する。				
年間を通じて教科で培う力	鍛錬（知識及び技能）	順列や組合せの場合の数を計算できる。 関係式が作れる、命題が述べられる。 図形に関する用語を習得し、図に書き表すことができる。 微分係数や導関数の定義が言える。 （不）定積分が求められる。				
	理知（思考力・判断力・表現力等）	場合の数や確率を計算する際に、重複や漏れがないように立式できる。 問題文からどんな数学的性質を用いればよいか、読み取れることができる。 目的に応じて、立式や式変形ができる。				
	探求・叡智（主体的に学習に取り組む態度）	間違えた問題に対して、粘り強く取り組み、解答にたどり着くことができる。 自分が理解できていない内容を分析して、解決できるまで取り組むことができる。				
学習情報						
月	回	単元名	単元目標（到達状態）	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4 5	15	数え上げの原則と集合と要素の個数 順列 組合せ 事象と確率 確率の基本性質	・ベン図を利用して、集合を図示できる。 ・ド・モルガンの法則を利用して、複雑な集合の表記を簡単にすることができる。 ・樹形図を使って場合の数を漏れなく数えることができる。 ・PやCの基本的な計算ができる。 ・確率の意味を理解し、計算で求めることができる。 ・順列と組合せの計算を利用して簡単な確率を求めることができる。 ・和事象と積事象を理解し、正しく確率を求めることができる。 ・余事象を使って確率を求めることができる。	・集合、部分集合、共通部分、和集合 ・全体集合と補集合 ・ド・モルガンの法則 ・樹形図を使った数え上げ ・順列と組合せの計算 ・確率の基本性質と計算 ・余事象の計算	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
6	定期試験① 令和8年 6月3日—6月5日					
6 7	12	独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付き確率 期待値 直角三角形と三角比 三角比の相互関係	・反復試行において、復元抽出や非復元抽出を意識し、ある事象が起こる確率を正しく計算することができる。 ・条件付き確率と積事象の確率を、事象の独立性に着目して計算することができるようになる。 ・三角比の定義が言える。 ・sin,cos,tan のうち1つの値から残り2つの値を求めることができる。 ・三角比を含む方程式を単位円を利用して、解くことができる。	・独立とは何か、またその計算方法 ・反復試行の確率と条件付き確率の計算 ・期待値の計算と活用 ・三角比の成り立ち ・三平方の定理と三角比 ・同じ値になる三角比 ・三角比の拡張	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
7	定期試験② 令和8年 7月15日—7月17日					
7 9 10	15	三角比と座標 三角比の性質 正弦定理・余弦定理 面積の公式	・三角比を含む方程式を単位円を利用して、解くことができる。 ・正弦定理・余弦定理を用いて、三角形の辺や角を求めることができる。 ・三角比を利用してビルの高さや山の標高などを測量することができる。 ・三角形などの図形の面積を三角比を用いて求めることができる。	・特別な三角比 ・三角比の相互関係の拡張 ・正弦定理を使って辺や角を求める ・余弦定理を使って辺や角を求める ・三角形の面積の求め方	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
10	定期試験③ 令和8年 10月21日—10月23日					
10 11 12	15	集合 命題と条件 論証 導関数 導関数の計算 関数のグラフと増減	・集合の性質を知り、適切な表し方で表現することができる。 ・命題の意味を理解し、文章→集合へと変換することができる。 ・真偽を見極め、どの条件にあてはまるかを答えることができる。 ・導関数の定義を理解し、様々な関数の導関数を定義を使って求めることができる。 ・微分とは何かを理解する。 ・微分を使って接線の方程式を求めることができる。 ・微分を使うことによって、関数の増減が把握できることを理解し、グラフの形状を図示できたりイメージできる。 ・関数の極値、極大値、極小値、最大値、最小値を求めることができる。	・真・偽の判定 ・必要条件・十分条件 ・逆・裏・対偶 ・背理法 ・平均変化率と導関数の定義 ・導関数の基本的な計算 ・接線の傾きや方程式の求め方 ・導関数の符号と関数の増減 ・関数の極大・極小 ・関数の実数解の個数や最大・最小	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
12	定期試験④ 令和8年 12月9日—12月11日					
1 2 3	15	原始関数 定積分 面積	・微分と積分の関係を理解する。 ・不定積分と定積分の性質を理解する。 ・不定積分、定積分をそれぞれを正しく求めることができる。 ・積分によってなぜ面積を求めることができるのか理解する。 ・積分を使って曲線や直線で囲まれた面積を正しく求めることができる。	・微分と積分の関係 ・不定積分と定積分の計算方法 ・定積分の性質 ・定積分と面積の関係 ・直線、曲線、放物線などで囲まれた部分の面積	・講義 ・演習	・小テスト、再テスト ・問題集や課題プリントへの取り組み
3	定期試験⑤ 令和9年 3月4日—3月6日					